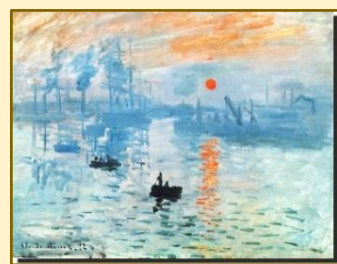


150 周年記念 印象派とは何だったのか？ ーグループ展を通して再考するー

印象派と呼ばれる画家たち(モネやルノワールなど)が最初のグループ展を開いたのは 1874 年(明治 7 年)です。一昨年(2024 年)は 150 周年でした。彼らは全部で 8 回のグループ展を開きますが、最初の 3 回展までに重要な作品が出品されています。今回の講座では、第 1 回展から第 3 回展までの主要な画家の出品作を中心として、印象派絵画の特徴を見直していきます。



モネ《印象、日の出》

講 師：島田 紀夫 氏 前ブリヂストン美術館館長 実践女子大学名誉教授

日 時：3 月 3・10・17 日(火曜日)全 3 回 午後 2 時～4 時

会 場：足立区生涯学習センター(学びピア 21 内)4 階 講堂

講 義 内 容：第 1 回 1874 年 最初の印象派グループ展 ーモネ《印象、日の出》

第 2 回 1876 年「新しい絵画」の誕生 ードガ《ニューオリンズの木綿事務所

第 3 回 1877 年「自然の記録(風景画)」と「文化の観察(風俗画)」

ーピサロ《赤い屋根》とルノワール・《ムーランド・ラ・ギャレットの舞踏場》

令和 7 年 忘年会の開催



令和 7 年は、当会に取って激動の一年でした。コロナ禍での活動自粛の 4 年間の間で、高齢や体力の衰えなどで当会を去る方が増加。そんな中でスキルのある方や限られたスタッフと共に創立 30 周年を迎え、何とか事業を継続してこれた事が夢のようです。共に頑張ってくれた方には、感謝の言い表し方がほかにありません。ありがとうございました。(代表理事 金子勝治)



新入会員のご紹介



楽しんで“学ぶ”

以前、こちらの講座を受講し学び直しの必要性を感じました。私は美術の分野に興味はありますがこれを機会に学びを深め、知的探求心を深めたいと思います。楽しんで“学ぶ”に、心を惹かれて微力ながらお手伝いできればと思っています。よろしくお願いいたします。 細井 京子



オルセー美術館所蔵 印象派 室内をめぐる物語

室内にひそむ家族のドラマ——ドガ渾身の傑作、初来日

今年3月に開催されるあだち区民大学塾講座「150周年記念 印象派とは何だったのか？」の関連で、事前に国立西洋美術館で開催されている「オルセー美術館所蔵 印象派展」を、会員研修目的で鑑賞した。



印象派の画家たちはいかに室内を描いてきたのか

自然のなかの光や空気の揺らぎをとらえた印象派は、1874年のパリで開催された展覧会をきっかけに誕生し、従来の絵画表現に革新をもたらした。それとともに、活気あふれる当時のパリで活動した印象派の画家たちは、新しい生活様式にも敏感に反応し、屋外だけでなく屋内の情景にも目を向け、多くの作品を生み出した。

本展では、「印象派の殿堂」ともいわれるパリ・オルセー美術館所蔵の傑作約70点を中心に、国内外の重要作品も加えた約100点を展示。絵画や素描などを全4章にわたって紹介することで、室内をめぐる印象派の画家たちの関心や表現の挑戦をたどるものとなっている。



第1章「室内の肖像」では、19世紀のサロンを舞台に展開した印象派のなかでも、とりわけ重要な表現手段であった「肖像画」に焦点を当てる。印象派の画家たちは、日常の室内空間における人物を描くことで、その人の性格や社会的背景までも巧みに表現した。画の中に見られる衣服や家具、調度品などからは、人物の生活ぶりや社会的地位をうかがい知ることができる。



第2章「日常の情景」では、19世紀には、都市を中心に公的空間と私的空間の区別が明確になり、憩いの場としての室内の重要性が高まっていった。主に家族や仲間内での演奏会、読書、針仕事、といった日常の楽しみが描かれた。なかでもブルジョワ階級の女性たちは、外を自由に歩くことが許されていなかったこともあり、彼女たちの肖像が数多く描かれているのも特徴。



第3章「室内の外交と自然」では、バルコニーやテラス、温室といった半屋外的な空間と、そこから望む庭や海などの自然が交錯する表現を紹介する。また室内装飾として飾られた花々を描いた静物画も合わせて展示されている。エドゥアール・ドゥパ＝ポンサンが描いた夫人の肖像画では、印象的なピンク色の背景に鶴や竹といった植物が描かれており、ジャポニズムの影響がうかがえる。



第4章「印象派の装飾」では、室内に自然を取り込む壁面装飾としての絵画を紹介している。モネが大装飾画プロジェクトのために習作として描いた《睡蓮》をはじめ、印象派の画家たちがいかに室内空間に自然を融合させていったかという実践も見取れる。ルーマニアの貴族ビバスコ公のために建築家のル・クールとルノワールが協業した邸宅の設計案も展示されており、依頼主の意向と印象派画家の作風が融合している点は室内装飾と

としての絵画の興味深い特徴のひとつと言えるだろう。こうした絵画が生活空間にあったらと想像してみるのも楽しい。今回の会員研修では、“室内にひそむ家族のドラマ”というテーマを通して印象派のもうひとつの魅力を堪能することが出来ました。

（金子勝治）

令和8年1月 運営委員会 報告・連絡

日 時 : 令和8年1月6日(火) 14:55~16:00

場 所 : 生涯学習センター : 5階 研修室4

代表挨拶

新年明けましておめでとうございます。

令和8年は、丙午(ひのえうま)、情熱的で行動力が高まる「飛躍」と「挑戦」の年です。停滞していた物事が動き出し、新しいことへの挑戦や関係の発展に適しており、明るく楽しい出来事が増える大きなチャンス的一年とされています。今年、新たな気持ちで停滞から飛躍の年となるように挑戦していきます。また、地域に住むシニア世代の方々の学び直しの支援を継続して参りますので、引き続きよろしくお願いいたします。

議 事

(1) 情報交換

- ・新入会員の紹介、鷺尾統一郎さんが入会されました。
1943年浅草生まれ、足立区で育つ、ダイビング始め各地でダイビング、「マリンダイビング」編集長
その後シナリオライターで文学賞受賞候補多数、現在「日本十姉妹アカデミークラブ」会長
- ・足立朝日に楽学の会の名刺広告を出稿した。1/5号

(2) 月例会開催について

- ・12月17日(水) 忘年会 6名参加 マルイ「京都二条茶寮」
- ・1月21日(水) 西洋美術館「印象派」展 鑑賞、3月講座「印象派」関連で事前に鑑賞する
10時 西洋美術館前 集合 鑑賞後 北千住(事務局)へ移動
14時 チラシ封入作業、講座検討会議 : ボラ活部より月例会案内、勧誘する。
- ・2月18日(水) 新会員 鷺尾さんの講演

(3) あだち区民大学塾 : 講座企画会議 : 1/6(火)、2/2(月) 検討会議 : 1/21(水)、2/18(水)

- ・12月「幕末の真実を探る！」講師 穂高健一氏、
12月2・9・23(火) 研1 応募者57名 受講者53名 延べ受講者131名
- ・2月 NHK大河「豊臣兄弟」関連 豊臣秀長と日本史のナンバー2たち 講師 跡部 蛭氏
2月14・21・28(土) 研1 受講受付中 応募締切日2/2
- ・3月 西洋絵画150年講座 印象派とは何だったのか? 講師 島田紀夫氏
3月3・10・17(火) 講堂

*令和7年度合計 9講座実施予定(千住宿400年2回含む)

令和8年度前期講座が確定した。

4月 日本経済入門2026 5月 江戸東郊の寺社 6月 中世古文書講座 豊臣政権の文書
7月 森 鷗外講座 9月 京都歴史講座

(4) 各部局からの報告および提案

- ①学習支援部 : チラシ封入作業(3月印象派講座) : 1/21(水) 14時~
- ②ボランティア活動推進部 : 1月~3月 月例会の内容検討
- ③事務局 : 事務局部会1/14(水) 12月決算、
新年号ニュース発送 12/24(水) 午後、講師へ源泉徴収票を同封した
会計 西村さん体調不良で欠席中、講座受付会計は渡辺さん担当、会計監査は金子代表が担当
- ④広報グループ : 楽学ニュース324号、ホームページ 1/1、メルマガ 1/1 228号

(5) 会員募集

- ・メルマガ 9月1日号以降会員急募を掲載中、ホームページに「入会のお誘い」掲載中
- ・大学塾講座で会員募集案内を実施中
- ・サークルフェア2025のプログラムに会員募集の告知を行う
- ・生涯学習センターの4階の受付横に会員募集のチラシ置かせて頂く : 10月後半より
- ・足立朝日に新年名刺広告を投稿した

(6) その他

- ・社会教育 1月号 回覧

*事務局当番へのエントリーお願いし、1月分の当番が決定しました。各位のご協力に感謝します

次回運営委員会 2月2日(月) 14:30から(研4)

以上

生涯学習センター 講座情報

◎講座名：蕉門十哲の一人 宝井其角の魅力に迫る

あだち 100 年大学講座

日 時：3/8（日）午後 1 時 30 分～3 時

定 員：40 人

受講料：800 円

会 場：足立区生涯学習センター 研修室 1

講 師：稲葉 有祐 氏

（和光大学 表現学部総合文化学科 教授）

内 容：芭蕉の弟子として有名な宝井其角は、その洒落な作風で大変な人気がありました。さらにその俳諧を通じた文化人との交流が華やかな江戸の文化に与えた影響を解説します。

◎講座名：考古学と科学で読み解く文化財 古代ガラスの事例から

あだち 100 年大学講座

日 時：3/28（土）午後 2 時～3 時 30 分

定 員：40 人（対面）、10 人（オンライン）

受講料：800 円

会 場：足立区生涯学習センター 研修室 1
（オンライン）

講 師：阿部 善也 氏

（東京電機大学工学部 応用科学科助教授）

内 容：考古遺物などの文化財は、「見る」だけでなく「調べる」ことで多くのことがわかります。本講座では古代のガラス製品の事例を中心に、考古学と科学が協力して進める最新の研究をお話します。実際の装置による実演も行いますので、材質が気になるものがあればご持参ください。

お申込みは：電話(03-5813-3730) 又は直接窓口
インターネット[近所 de まなびナビ]で検索
イベント・講座情報→講座予約システム



2026 年、関東厄除け三大師の一つとして有名な西新井大師、弘法大師により 826 年に開祖され古来より「火伏の大師」「厄除け開運」の霊場として知られています。
元旦には、元朝御開扉大護摩修行が行われます。

令和 8 年 2 月 月例会のご案内

日 時：2 月 18 日(水) 午後 2 時半より

内 容：「災害発生時の協力体制」

場 所：生涯学習センター 研修室 4

（ボランティア活動推進部）

楽学インフォメーション ★会合のお知らせ★

- ◎ 運営委員会
2 月 2 日(月) 午後 2 時半～3 時半 研修室 4
- ◎ 月例会
2 月 18 日(水) 午後 2 時半～4 時 研修室 4
- ◎ 学習支援部 講座チラシ交換便封入
2 月 18 日(水) 午後 1 時～2 時 ワークルーム
- ◎ 事務局
2 月 13 日(金) 午後 1 時半～ ワークルーム
- ◎ 広報グループ
メール会議
- ◎ 大学塾講座検討会議
2 月 18 日(水) 午後 2 時～2 時半 研修室 4
- ◎ 大学塾講座企画会議
2 月 2 日(月) 午後 2 時～2 時半 研修室 4
- ◎ 生涯学習センター 休館日
2 月 9 日(月)

★お問い合わせ & ご意見

- ◎ 「楽学の会」の運営に関するお問合せ
事務局 福田哲郎 電話:090-3207-8444
E-Mail : tefukuda2002@yahoo.co.jp

編集後記

脱炭素化社会に向けて 地球温暖化がもたらす生態系への影響！⑤

(324 号より)

2025 年、地球温暖化は異常気象の激化（豪雨・干ばつ）による生態系の破壊、生物多様性の損失加速（絶滅危惧種の増加）、食料システムへの脅威（作物の不作）、海洋生態系の変化、そして人間社会の生活圏拡大や耕作放棄地の増加などによる野生生物の生息地喪失に伴う人的被害や農作物被害の拡大などの危機感が、すでに現実の脅威となっています。これらは、温暖化だけの問題ではなく近年の都市化や過疎化による里山環境の変化が野生生物を人里に近づけ深刻な「獣害」を引き起こしている。適切な個体数管理や生息地管理、人間側の意識改革も重要な課題と言えます。また熱帯雨林の枯死予測や気候変動の日常化が直接的な要因で絶滅危惧種が増加するなど、生態系全体が未曾有のスピードで変化し人類の生活基盤をも揺るがしています。

前号で挙げた国や地域では農業に携わる人が多いため、農作物にも甚大な被害が発生しています。海面の上昇によって土地に塩害があると、育てている農作物がうまく育たず、食糧不足に陥ってしまいます。世界のほとんどの地域で、気温がより頻繁に極端に高くなっています。また熱波の頻度や持続期間も増加しています。気温が 1.5℃上昇すると、サンゴ礁が 70～90%が減少するほか、昆虫の 6%、植物の 8%、脊椎動物の 4%が生息域の半分以上を失うと考えられます。さらに、2℃以上上昇した場合には、サンゴ礁の 99%以上が消失するだけでなく、海の生態系の不可逆的な消失リスクが高まります。また、昆虫の 18%、植物の 16%、脊椎動物の 8%が生息域の半分以上を失うと言われています。生物多様性保全および回復のために、環境への負荷を低減させる省エネや再生可能エネルギーに転換などのライフスタイルに移行する努力が社会および個人に求められています。（金子勝治）